

# 進路便り

第1号

令和5年(2023年)11月17日発行  
熊本県立盲学校 進路指導部

進路指導部では、夏季休業中に「保護者施設見学会」を実施し、2つの事業所を見学しました。そこで得ることができた情報について、進路便りで詳しくご紹介していきたいと思います。まず、本号では、北区下碓川にある「社会福祉法人 はなぞの学苑」についてご紹介します。

## 1 はなぞの学苑創設経緯

熊本市が設置する各種社会福祉施設の運営を、適切かつ能率的に行うことにより、熊本市における社会福祉の増進に寄与することを目的として、設立された社会福祉法人です。



福祉施設の管理運営を社会福祉事業団に委託することにより、専門的能力を有した熱意ある人材を確保するとともに、施設利用者の増加等に対しても柔軟に対応でき、住民福祉の向上を図ろうとするものです。

また、今後ますます複雑・広範囲化していくと予想される福祉ニーズに対し、福祉施設でのサービスと在宅福祉サービスとの一体的・効率的なサービス提供を行います。

※熊本市社会福祉事業団ホームページから抜粋

## 2 理念について

はなぞの学苑は、昭和57年(1982年)5月1日に開設以来、

36年間に渡って花園校区で活動していました。平成28年(2016年)の熊本地震により苑舎に大きな被害を受け、平成31年(2019年)4月から、西里校区(熊本市北区下硯川)へ移転して、新たなスタートを切っています。

熊本市社会福祉事業団の理念を基本としながら、地域に根付き、地域に愛され、地域とともにある学苑づくりを進めています。

学苑のめざす姿として

- ① 利用者にとって通いがいのある学苑
  - ② 家族にとって通わせがいのある学苑
  - ③ 職員にとって勤めがいのある学苑
  - ④ 地域にとって応援しがいのある学苑
- の4つについてめざして取り組んでいます。

### 3 事業内容

#### ① 就労継続支援B型について

就労継続支援B型は、定員は20人です。活動内容は農芸班と室内受注班(紙袋の紐通し等)施設管理班(室内清掃)と地域交流カフェの4つの内容で作業に取り組んでいました。月末には、工賃を支給されています。

#### ② 生活介護について

生活介護は、定員は40人です。活動内容は、つくしグループ、ばらグループ、さくらグループに分かれて行っていました。

「つくしグループ」では、

さをり織りやビーズ通し、フクロウブローチ作り等手芸をメインに活動していました。デザインは、利用者さんがその都度考えているそうです。



「ばらグループ」では、陶芸を中心に活動していました。ねんどを形に入れて、皿を作ったりカップを作ったしていました。形を成形する人や絵付けをする人に分かれて取り組んでいました。



「さくらグループ」では、木工活動をしていました。木を加工して、箸置きを作ったり、しゃもじを作ったりしていました。また同時に、紙すきをして制作活動をしていました。

就労継続支援B型も生活介護も、利用者は朝、送迎車で施設まで登苑し、活動終了後に送迎車で降苑していました。

## 4 学苑生活の流れ

### 《生活介護》

	月	火	水	木	金	土
	登苑（職員・家族の送迎）					
9:00～	着替え・朝の確認（日程等）					
10:00～	健康活動（体操・ウォーキング）			合同活動	作業余暇	合同活動
11:00～	作業・余暇					
12:00～	昼食・歯磨き・昼休み					
13:00～	作業・余暇			合同活動	作業余暇	合同活動
14:00～	着替え・連絡帳記入・帰りの準備					
15:00～	降苑					

《就労継続支援B型》

	月	火	水	木	金	土
	登苑（職員・家族の送迎）					
9:00～	着替え・朝の確認（日程等）					
	作業・余暇					
10:00～						
11:00～	休憩・ストレッチ					
	作業					
12:00～	昼食・歯磨き・昼休み					
13:00～	作業					
14:00～						
	着替え・連絡帳記入・帰りの準備					
15:00～	降苑					

【終わりに】

「はなぞの学苑」には、昨年度の卒業生が活動に取り組んでいました。とても楽しそうに作業し、やりがいを持って活動をしていることが伝わってきました。学校生活で、幼児児童生徒一人一人の得意なこと、一つの作業を継続して取り組むことを、見つけたり、探したりして卒業後の生活に繋げていきたいと思います。